

前年度の成果と課題		教育目標	主体的に学び考え、心豊かにたくましく生きる子どもの育成。			総合評価	
<p>○コミュニティ・スクールとして、地域や保護者を巻き込んだ学校づくり目指している。地域の方から多大な協力をいただいている。保護者とともに活動することができる。よい。</p> <p>○基礎・基本を大切に、学校全体が学ぶ姿勢をもち指導を継続していく。その一方で、家庭学習の定着や学習指導の在り方など学校全体で統一した指導を進めることができた。家庭の協力を得ながら進めていきたい。</p>		運営方針	法順守の下、鎌田小学校の地域・児童の実態を踏まえ、「知・徳・体」の調和のとれた教育を展開し、社会の変化に主体的に対応できる資質や能力を備え、鋭い人権感覚を有し、にんげんせいゆたかたたくましく生きる児童の育成に努める。			B	
		本年度の重点目	(1)学校力の向上…課題把握とPDCAサイクルの活用、計画的・継続的な研修、学校運営協議会の活用、教職員の意識改革と学び続ける職員集団				
			(2)創意工夫した授業の実践と授業力の向上				
			(3)特色ある教育活動の充実				
学校経営	評価の観点		評価	成果と課題（評価の分析）	次年度への課題と改善策等	学校関係者評価	
教育目標・指導の重点	児童や地域の実態に即した学校教育目標が立てられている。		A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・奈良県の教育大綱や香芝市学校教育の指導指針に基づき、学校目標を設定し、全職員で目指す子ども像を共有し取り組んできた。学校だよりやHP等の積極的な情報発信をすることで、保護者へも学校の教育の方向性を知らせてきた。「学びのロードマップ」を作成したことで職員間での認識の共有に成果が見られてきたが、保護者へのさらなる周知を含め引き続き取り組む必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育目標や指導の重点に基づいていないわけではないが、児童の実態に則した学年・学級目標とはズレが生じている学年があった。児童に必要な力の把握を努め、指導力の向上とともにつけたい力を具現化するための「学びのロードマップ」を児童の実態に則したものであるか検証し次年度も継続していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模の学校ならではの、目の行き届きのよさがあると思う。先生方のコミュニケーションもよく取れていると感じている。</li> <li>・コロナ禍の中、現状を踏まえ通常の学校生活を取り戻そうとして積極的に努められている。大変な決断と判断を要されたと思う。</li> </ul>
	教育目標が教職員、保護者に理解されている。		B				
	教育目標が教育活動を進める上で生かされている。		A				
	学年・学級目標は、学校教育目標や指導の重点に基づいて立てられている。		B				
学校運営・組織	学校運営に校長のリーダーシップが発揮されている。		A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種委員会、部会の効率的な運営については引き続き課題が残る。</li> <li>・本年度は職員の半数が入れ替わったため部長や主任が見通しを持って企画運営、または教育目標を具現化するための活動を進めることが容易ではなかった。しかしそれゆえに職員間での協議が深まり見直すべき点が提案されることが多かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部長、主任は本年度の課題を明らかにし、引き続き見通しを持った企画運営を行うことができるように継続して取り組む必要がある。引き続き見通しをもった企画運営、また教育目標を具現化するための活動の提案ができるように取り組んできた仕組みを活用できるようにする。</li> <li>・ICT機器を効果的に活用し連絡事項を必ず共有することで、会議や学校行事の円滑な運営につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校長の思いがよく伝わってくる。教育者としてマネジメントされていると感じている。学校全体にその思いが浸透してくることを願う。</li> <li>・ペーパーレス化の時代であるが、学校だよりはこれまで通り紙媒体で配布してもらいたい。地域への啓発にもなる。</li> </ul>
	職員会議やあらゆる学校行事の円滑な運営を、管理職が率先して意識的に行っている。		B				
	職員会議の運営等、相互の連絡が円滑であるとともに、互いの特色や独自性も尊重した学校運営が行われている。		B				
	職員会議や研修された内容が、学校運営や、学年・学級の教育活動に反映されている。		B				
	職員の適材適所を配慮して校務が分掌され、職員の意欲を引き出した学校運営が行われている。		B				
	予算の編成・執行の方法や手続きなどが適正かつ効率的に行われている。		B				
	校内の各委員会や部会等が計画的に開かれ、有機的に機能している。		B				
学校評価	教育活動の総括（評価）が次年度に生かされ、計画が改善されるようになっている。		B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内部、外部評価をCSと共有することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価を学校運営協議会、職員、保護者で共有し、すべての関係者で課題解決に取り組む。</li> </ul>	

教育課程	年間授業時数の確保と週時程の運営ができています。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育目標の具現化に向けた教育課程を編成し概ね達成できた。授業時数の管理を強化し時数確保はできたが、数字だけの確保とならないように授業内容を見直すことは必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムマネジメントを積極的に進め、組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図る。また、再開された学校行事等の時数は昨年度よりも当然増えた。活動内容の見直しを図り、その目的にあった時数であるのか見極めて進める</li> </ul>
	教育課程が、児童や地域の実態に即しており、学校独自の工夫がなされている。	B			
地域連携	家庭訪問、授業参観、懇談会、家庭連絡などを通して、学校と家庭との連携が密に図られている。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書・見守り・学習支援・花壇環境整備など、学校コミュニティの方との意見交換の場を計画的にとることができた。双方が今後の学校コミュニティの進め方について方向性を見出すべく取り組み、活動記録を残すことで来年度に引き継ぐための準備も行った。</li> <li>・夏期休業中の算数教室でも地域の方や教育実習で縁ができた方にお手伝いをいただきことができた。</li> <li>・学校だよりの発行等を通しての情報発信や香芝教育の日にオープンスクール（学習発表会）を行い保護者や地域へ学校の取組の一端を発信する場を設けた。</li> <li>・委員会活動を通した子どもたちとの交流の機会を持つこともできた。また、マラソン大会や鎌田小ウォークなど保護者や地域コミュニティの方の力いただく機会が増えた。学校だよりの発行や香芝教育の日にオープンスクール（学習発表会）を行い保護者や地域へ学校の取組の一端を発信する場を設けた。</li> <li>・地域コミュニティの中の保護者の立場から協力体制を得ることを今後の課題とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティスクールの更なる充実のため、学校運営協議会と連携を密にし、地域との連携を進める。</li> <li>・本年度の取り組みをもとにして、鎌田小の子どもたちのためにできる活動を計画的に増やしていくためにも連携を取るようしていく。</li> <li>・コミュニティ・スクールの意義や進め方について理解を深め、「すべての大人が一致団結して地域の子供を育てる」ために行うべき本校のコミュニティ・スクールについて再認識したうえでさらなる活動を見出していく時期だと考える。</li> </ul>
	関係機関への相談等を通じて、協力関係が築かれている。	B			
	地域の施設や人材、地域教材の活用ができています。	B			
	鎌小コミュニティ・スクールに於いて、コーディネーターや担当者や学校の指導部・教務部などとの意見交換ができています。	B			
	鎌小コミュニティ・スクールに於いて、地域の方々と子どもたちとの交流ができるよう、計画をたてて進めようとしている。	B			
保護者や地域へ学校の取組の一端を発信する場を設けている。	A				
危機管理	校地・校舎・設備の点検を定期的に行い、安全が確保されている。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全点検の日と定めて、定期的に点検を行い事故の未然防止に努めた。</li> <li>・不審者対応訓練を実施することができた。本年度は職員だけの訓練だったが、毎年行っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童引き渡し訓練を実施することができた。地域と合同実施についても前向きに検討をしていきたい。</li> <li>・児童も参加してのできる不審者訓練の実施についても検討していく。</li> </ul>
	不審者対応及び危機管理マニュアル等を作成し、職員間の共通理解のもとに緊急時の対応に備えられている。	B			

評価はA・B・C・Dの4段階

令和5年度 学校評価総括（計画）表【Ⅱ】

香芝市立鎌田小学校

教育活動	評価の観点	評価	成果と課題（評価の分析）	次年度への課題と改善策等	学校関係者評価
各教科等の指導	各教科の目標に基づいた指導計画が作成され、それに沿った学習指導が展開されている。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度の教育目標を達成させるため「自分の思いや考えを伝えあうことのできる児童」をめざす子ども像とし、話型を使った使った指導を徹底することができた。また、学習環境を整え、学力向上につながるための手立てとして「児童が前のめりになる授業づくり」をめざし、授業での「めあてとふりかえり」の位置づけや「チャイムスタート」を意識した指導を継続することができた。教育的課題を職員全体で共有し、改善の方向性を研修することができた。</li> <li>・算数チャレンジの時間が少なく、学習の学び直しはできているが、この時間が学力保障につながっているのか懸念する声が上がっている。</li> <li>・朝読の時間の図書ボランティア・図書委員会による読み聞かせ働きかけ等により読書に意欲的に取り組んでいる児童が増えた。しかし、まだ読書に集中できていない児童も多く見受けられる。</li> <li>・タブレットやICT機器は普段から全員が活かしていると感じている。指導に効果的なものかを吟味したうえで活用することができるようになってきた。今後も効果的な活用法を学んでいきたい。</li> <li>・タブレットを活用する力はあるが、それに伴ってルールがあいまいで遊びに使っている児童が目につくようになってきた。職員による共通した指導の継続が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1時間1時間の学習を大切に、「めあて」と「振り返り」を定着させることができてきた。</li> <li>・今後も基礎基本の定着を図るとともに、授業力の向上や児童の学力向上につながる授業改善に努めていく。</li> <li>・夏期休業中に実施した個人が受講した研修内容の伝達講習を継続し、教員の学びの場にしていく。</li> <li>・各教科の評価結果の活用についての検討はできているが、評価のあり方について研修する必要がある。</li> <li>・引き続き基礎基本の定着を図るとともに、授業力の向上、算数チャレンジや評価のあり方について検討する機会を定期的に持ち、児童の学力向上につながる授業改善に努めていく。</li> <li>・朝読だけでなく少しでも読書への関心を高めるために本年度の図書ボランティア・図書委員会の活動を継続し本が身近にある環境づくりに努める。</li> <li>・理科室の実験道具に古いものが多く、少しずつ入れ替えていく必要があることが判明した。今後も定期的な職員作業を行い、学習環境の整備・管理を行っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットも大切だが、五感を大事にする活動も大事だと思う。</li> </ul>
	各教科の指導内容について、基礎・基本を明確にしながら教材の精選、指導方法の工夫が行われている。	B			
	児童一人一人の個性や能力に応じた指導が展開されている。	B			
	評価のあり方や各教科の評価結果の活用・改善について検討している。	B			
	総合的な学習の時間では、児童・地域の実態を踏まえ、創意工夫を生かした活動が展開されている。	B			
	タブレットやICT機器を効果的に使い、授業で生かしている。	B			
	オンライン（Meet/ドリルパーク・ロイロノート等）で課題を出したり授業を行ったりする準備ができています。	B			
	「算数チャレンジ」の時間が児童の学力保障につながっている。	B			
	教材・教具を効果的に活用し、指導の充実を図っている。	B			
特別教室や施設、電子図書システムなどを有効に活用されている。	B				
生徒指導	生徒指導に対する職員間の共通理解が図られ、全校体制による実践が行われている。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者への周知と生徒指導への共通理解を図るために「鎌小ガイドブック」を作成した。それを活用して持ち物・衣服などを確認する機会をその都度持たなくてはならない。</li> <li>・不登校傾向にある児童（保健室登校児童）への対応は現在の人員では難しい部分もある。今まで行ってきた保健室経営では対応が難しいので、担任教諭との連携はもちろん、学校と外部関係機関等との連携も視野に入れ対応していく必要がある。</li> <li>・全職員で気になる児童についての情報交換をする時間を定期的に持ち児童理解に努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全児童を全職員で指導する姿勢を持ち続けていく。</li> <li>・各学級の「気になる児童」を報告し合う時間を次年度も継続していくことで児童理解に努める。</li> <li>・全職員が同じ視点で指導に当たるよう、会議で決定したことは確実に指導に生かしていく。</li> <li>・タブレットの使い方に慣れてきたこともあり情報モラルの学習を計画的に実施していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何かあった時には、すぐに対応していただいている。感謝している。</li> </ul>
	児童理解に基づいた教育相談が行われている。	B			
	地域・保護者・関係機関と連携を取りながら、安全教育に取り組んでいる。	B			

	インターネットによるトラブルや犯罪に巻き込まれないよう、学年の実態に合わせて情報モラルの指導が行われている。	B		<ul style="list-style-type: none"> <li>・字綴でタブレットに関して気になることがあったとき、情報モラルの学習が取り入れられていないように感じた。どの教科で学習させるか難しいところもあるが、これからの社会にむけて必ず情報モラルの指導を行っていく。</li> <li>・全校朝礼や下校会、学級活動の時間を通じて、必要な指導を徹底するように心がけてきた。また、繰り返し指導し続ける姿勢を大切にしている。</li> </ul>	
規範意識	基本的な生活習慣や集団生活における行動のあり方を身につけさせる指導が行われている。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昼休み開始のチャイム後走る児童が多く、安全管理の徹底が必要である。また、すべての教員が同じ視点で根気よく指導を続ける姿勢が不可欠である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の実態を保護者・地域とも共有し、連携して規範意識の向上に取り組んでいく必要がある。</li> <li>・本年度、児童会活動を通して取り組んだ「あいさつ運動」により児童の挨拶することへの意欲・関心に高まりがみられた。引き続き根気強く継続していく。</li> </ul>
	重点目標である「あいさつ」「廊下や階段の歩行」に対して、日々指導することができている。	A			
	いじめ、不登校、問題行動等の予防・対応を速やかに行えている。	B			
道徳	「特別の教科 道徳」の趣旨を踏まえ、「考え議論する」道徳の授業づくりができている。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「特別の教科 道徳」としての指導と評価が定着してきた。子どもたちの道徳性を養うために、教育活動全体を通じた道徳教育を充実させる。</li> <li>・校内で授業を参観する機会を設けることができ、授業づくりの参考にさせてもらえた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳年間指導計画別様の使い方を充実するため、更なる指導法の工夫・改善を図り、「考え議論する道徳」の授業づくりを目指す。評価については、研修の余地がある。</li> </ul>
	児童や地域の実態を考慮した指導計画が立てられている。	B			
	指導資料の整備・開発・活用を意識的に行い、指導計画に見合った授業が展開されている。	B			
	教育活動全般を通して、全体計画・別業を活用し、他教科との関連を図りながら指導の工夫ができている。	B			

- ・縦割り活動が盛んなところがいい。
- 夏休みのラジオ体操を見ていると、5・6年生の子供たちが育ってきてると感じる。
- ・学年関係なく関わっているところがとてもいい。
- ・農園があつて、自然豊かなところがいい。

特別活動	特別活動の全体計画や指導方針が明確にされている。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>一つの目的に向かって各委員会が主体的に活動できるように、児童が目標を決め、それに見合う活動ができるように導いていく必要がある。学校行事はコロナ禍と同様に戻すのではなく、工夫し改善を加えて実施することができた。児童集会や代表委員会など児童会活動の機能を進めることができた。児童が学校生活の向上に主体的に関わる事ができるようにしていく必要がある。学級会活動を活発にするための「学級会セット」を活用し、児童の自発的・自治的活動をめざすことができた。児童集会や代表委員会など児童会活動の機能を進めることができた。児童が学校生活の向上に主体的に関わる事ができるようにしていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別活動の意図を職員間で共通理解し、ねらいを明確にして取り組む必要がある。</li> <li>特色のある学校づくりを進めるため、教科横断的な取組を構築していく必要がある。学校行事が再開されたことで落ち着いた児童への対応が不十分とならないために、活動内容を見直し精選しつつ進める必要がある。職員も児童も行事に追われることのないように計画し進める姿勢を持って望みたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>異年齢・異学年の交流が深い。</li> <li>学年を超えたコミュニケーションが素晴らしい。</li> </ul>
	学級活動の時間を確保し、学級や学校の生活の充実と向上・生活上の諸問題の解決に向けて活動できている。	B				
	児童会活動（代表委員会・委員会・児童集会）では、児童の自発的・自治的な活動が行われている。	B				
	クラブ活動では適切な時間を確保し、児童の興味・関心を追求する活動が自発的・自治的に行われている。	B				
	学校行事は、1年を通して適切に実施され、工夫・改善がなされている。	A				
人権教育	人権やくらしの中にあるさまざまな差別に対する正しい見方・考え方を育てている。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>縦割りに変わった栽培活動をもう少し活用して命の大切さを感じられるようにしたい。育てる時期もあるので準備を含めて地域ボランティアの方と連携は必要となってくる。</li> <li>アニマルパークのいのちの学習や、生活科・おおきくなったよの聞き取りなどがあった。</li> <li>全学年統一して位置づけた人権参観の日を設けることができなかった。人権や暮らしの中にある様々な差別に対する見方・考え方を児童に育てていくためにも教職員自身も研修する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年ごとの指導計画と系統的な指導の実際を全職員で共有できるようにしていく。学びが偏らないように指導の進み具合を定期的に確認し合う機会を持つ。</li> <li>あらゆる活動を通して、人権について考える指導、いのちの大切さについて考える指導を行っていくことが大切である。学年ごとの指導計画と系統的な指導の実際を全職員で共有できるようにしていく。学びが偏らないように指導の進み具合を定期的に確認し合う機会をもつ。</li> </ul>	
	命の大切さに気付き、それぞれかけがえのない存在としてたいせつにする心情を育てている。	B				
	一人一人のよさやちがいを認め合い、支え合うことのできるなかま集団を育てている。	B				
	学年ごとの指導計画によって、系統的な指導が行われている。	B				
	人権参観や学年だより等により、保護者に対する啓発活動が行われている。	B				
特別支援教育	配慮を必要とする児童についての職員間の共通理解が十分になされ、校内委員会やケース会議等により適切な対応ができています。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員間の共通理解のもと、児童一人一人の可能性を最大限に伸ばすための取組を進めていくためには今後も必要に応じて校内委員会を開く必要がある。</li> <li>特別支援教室の授業を職員全員が参観する機会を持つことができた。教室で学習する児童の様子を知る機会となった。学級通信「ひまわり通信」は、不定期であっても職員にも児童にも教室での様子を知らせることになるので継続していきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童共通理解の機会を重視し、情報を共有して今後も丁寧な取組を進める。校内委員会・ケース会議をより活性化させる。</li> <li>児童の実態をしっかりと見取り、関係機関につないだり個別の支援ができる体制を今後も継続していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>縦割り活動など、リーダーを育てたり教科横断的な活動をされているところが良い。</li> </ul>
	特別支援学級についての正しい理解が図られている。	A				
	通常の学級においても特別支援教育の理念を大切に学習が進められている。	B				
	児童一人一人の実態に合わせた個別の教育支援計画に基づき、指導が行われている。	B				
キャリア教育	キャリア教育の目的を理解し、日々の教育活動を進めている。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別活動を中心にキャリア教育の視点を踏まえて基礎的・汎用的能力の育成に努めたが、個々のキャリアパスポートにその軌跡を残すには不十分な活動となっていた。キャリア教育の視点についての認識不足とも言える。</li> <li>単なる当番活動に終わってしまわない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「キャリア教育の手引」をもとに本校が進めるキャリア教育について職員で再確認し、キャリアパスポートを充実させていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>縦割りグループの活動は、学年をこえてコミュニケーションづくりができ、上級生としての自覚もできる。</li> </ul>
	係活動や委員会活動、清掃活動、勤労生産的な活動等を通して、自らの役割を果たそうとする意欲や態度を育てている。	B				

	児童の発達段階に応じて基礎的・汎用的能力を育てるための取組ができている。	B	<p>「<small>手はるこま出動に活用してしまえば、</small>」  <small>ように意欲を引き出す活動としていきたい。</small></p>		
	児童一人一人の発達に応じて身近なところから、人、社会、自然、文化とかかわる体験活動を進めている。	B			
健康安全教育	熱中症、感染症、アレルギーや事件、事故等に備えた予防措置や緊急時の救急体制など危機管理について対応を図っている。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不審者対応訓練、保護者や地域の方を巻き込んだ交通安全教室や雨天時の緊急引き渡し訓練を実施することができた。</li> <li>・アレルギー対応に関する研修を継続して行うことで、食物アレルギーへの研鑽を深めることができた。</li> <li>・今後も換気・手洗い等の感染予防は引き続き行っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての対応マニュアルはあるがアレルギー対応以外は訓練を行っていない。それらについての理解を深める研修や実践訓練を計画的に行っていくことが必要。</li> <li>・引き続き、清掃指導は異年齢集団活動を生かした活動に位置付ける。高学年を中心に、一人一人が自分たちの学校をきれいにする気持ちよさを感じさせるような指導を重視する。</li> </ul>
	健康面の自己管理ができるよう、ほけんだより等の配布物を活用し、意識して指導している。	B			
	交通安全教室や避難訓練、防犯教室等を実施し、安全に対する児童の意識の向上を図るとともに、緊急時に対応する実践力が培われている。	B			
	清掃場所に応じた清掃指導が適切に行われている。	B			
特色ある学校づくり	花いっぱい学校をめざし、児童が主体的に栽培活動を行える支援がなされている。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の特色ある教育活動としての栽培活動ではあるが、実態に則した計画なのか必要性について改めて職員で議論する必要性が出てきた。活動を通して児童にどのような力をつけたいのか、どのようなねらいをもって取り組んでいくのか再確認する。児童会活動と関連させることで、本校の伝統である栽培活動を継続することができた。一方で児童に栽培することへの楽しみや喜びをもたせる工夫が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が花いっぱい学校にすることを望むようになるためにはどのような活動を展開ればよいのかについて工夫していく必要がある。</li> <li>・「ねらいなき活動」にならないよう常に活動内容を確認し異年齢集団活動や委員会活動を活用して栽培活動を行う。児童がより身近に花いっぱい学校をめざす取り組みとなるような計画を進めていく。</li> </ul>
	異年齢集団活動が子どもたちの好ましい人間関係づくりの場として機能している。	B			
	「くすの木活動」の活動内容は、子どもたちの発想が活かされ、協力し合える場となっている。	B			
	児童の表現力を高める取組として、日頃の学習過程や成果を発表する場を設けている。	B			

・引き渡し訓練は、今後も行っていただきたい。

食育	衛生や安全に気をつけ、給食の準備や後かたづけが行われている。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>給食室への返却や、残した場合の返し方など担任からの指導を徹底した成果が見られた。</li> <li>給食室前に片付け方の表示や説明を春に行うなどの工夫したが、根気強く指導を続ける。</li> <li>コロナ禍における会食のルールについて徹指導を続けてきた。</li> </ul>	<p>コロナ禍での対策のなかで行ってきたことは、衛生や安全面を考慮しながら継続していく。</p> <p>食育に関する指導の資料を積極的に活用し、食育に関しての関心を高めさせていく。</p>	
	食に関する知識と食を選択する力を身に付け健全な食生活が送れるように給食だより等を活用して食育の指導が行われている。	B				
	偏食を減らし、正しい食事作法を身につけるよう、学年に応じた給食指導が行われている。	B				
読書活動	児童が楽しんで読書できるような指導を行っている。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の読書タイムに、図書ボランティアの方による読み聞かせを継続して実施している。また、図書委員会の児童が低学年の教室で読み聞かせを行ったが、双方にとってとても有意義な活動となったと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読み聞かせだけでなく、児童が主体的に読書する方策を、模索していく必要がある。</li> <li>職員も共に読書するということが徹底できていなかった。児童に本を読む環境のためにも職員の意識改革が必要。学級に常時設置している本の充実と活用も課題といえる。</li> </ul>	
	さまざまな教育活動において、PC室や図書室などの特別教室や校内の施設・設備が有効に活用されている。	B				
体力向上	体育的な行事・取組が子どもたちの健やかな成長につながるよう、適切に行われている。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動会は体育科の学習の取組を生かしつつ、以前のような運動会に近づけることでより一層児童の意欲を引き出すことができた活動となった。昨年度に比べて駆け足や縄跳び、外遊び等の推奨を制約をかけることなく実施することができた。特に日頃の体育科の学習の取り組みを生かした活動に加えて児童の活動の場が広がったことで活気ある運動会を実施することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニティとも連携し、マラソン大会や大縄跳びを行った。学級遊びや外遊びタイムを活用して体力向上への意識を高めていく。スポーツテストや大縄などこれまでコミュニティと連携してきた活動を継続しつつ、児童への体力向上や外遊びへの関心を高めていく取り組みを検討していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちに大勢の前で発表できる力を付けてほしい。人前で話すことで、身に付く力もあります。くすのき祭りに代わる経験があるとよい。</li> </ul>
研修・研究	校内研修の内容や計画について、職員間で共通理解され、授業実践を通じた研修が行われている。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>目指す子ども像を示し、話型を使った指導など具体的な取り組みを職員で共有し取り組むことができた。毎時間のめあてとふりかえりの時間を位置づけたことで一時間に学ぶことを明確化することができた。教員も児童もチャイムスタートの意識については継続して啓発の必要がある。</li> <li>個人が研修会で学んできたことを全職員に広げることを目的とした研修は貴重な研修となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>来年度は国語科の「話す・聞く」を通して、基礎基本の学力の定着・表現活動の充実を目指す。</li> <li>基礎基本の定着のためには、学習においてもPDSCを機能させ、「分かる授業」、「児童の実態に即した、手立ての検証」が必要である。職員の研修時間の確保とともに、研修内容の充実を図りたい。毎時間のめあてとふりかえりの時間を位置づけ一時間に学ぶことを明確化することを継続させていく。</li> </ul>	
	研修主題に沿って、校内研修が計画的に積み上げられ、教員の資質向上に生かされている。	B				
	授業方法等について検討する機会を積極的にもったり、校外の研修会・研究会に積極的に参加したりして、日々の授業実践に生かしている。	B				

※評価はA・B・C・Dの4段階

